

岩井化成(茨城県坂東市、〒0297-35-1879)は、再生ごみ袋の製造・販売で注目を浴びている。フィルムの端材などを再生した規格ごみ袋「ファミリアパック」や、ハウス用農ポリを「ごみ袋」としてリサイクルした「農強ダストパック」などを製品化し、好評を得ているようだ。しかしながら、最近では廃プラの確保が困難になっており、これは中国などへの輸出が多くなっていることを原因としている。「国内で出た廃プラは国内で活用するべき」と強調する同社代表取締役の清水弘氏に、同社の取り組みなどについて話を聞いた。

トップインタビュー

廃プラを「ごみ袋」に再生

農ポリの循環型製品など好評

原料から製袋まで一貫生産

当社は、廃プラを再生する事業者として約20年前にスタートし、現在ではごみ袋を中心に再生ポリエチレンの製品化に取り組み、おかげさまで好評を得ています。設備として、ポリエチレン再生加工機3台、インフレーション機11台、全自動製袋機2台のほか、今年に入ってからは海外製

の高機能洗浄機も導入し、24時間稼働を実施しています。このように、廃プラの原料から袋製造に至るまでの一貫体制を構築しています。価格でも低価格化を実現し、多くの



岩井化成 代表取締役

清水 弘氏

貴体制を構築しています。価格でも低価格化を実現し、多くの

に困っていたのが現状でした。当社では、各処理業者と提携し再資源化の方法を模索する中で製品化にたどり着き、農ポリの排出者である多くの農家に利用していただける商品を生産しています。通常の再生原料に比べて、土の色がつかため色合いはよくないですが、強度もありごみ袋として再利用していただくの機能は十分です。限られた資源をいかに有効利用するかは、物を作る企業にとって課せられた問題です。とくに、ごみ袋は最終的にごみ処理される製品であり、多くのパッケージ原料が使用されていることについて、もう一度考える必要があるのではないのでしょうか。しかしながら、最近では廃プラの確保が困難になっているのが実情で、その多くは中国など海外に輸出されています。これは、国内に比べて中国などが高く購入していることが原因であり、聞いたところでは一部自治体で中国に販売していたところもあったようです。循環型社会を掲げる行政が、それに反し取り組みをしていることに非常に憤りを覚えまして、国内で出た廃プラは国内で再利用することが本来の姿だと思いますし、資源のない日本ではなおさらです。当社こうした声に賛同をいただける自治体や企業も多いですが、今後も循環型社会の意味するところを声を大にして訴えていきたい。そして、再生製品の有効性をさらに強調し、少しでも地球環境に貢献していきたいと思えます。